

カレッジわくわくシアター

6月からいよいよスタート！！

県民カレッジ高岡地区センターでは、6月よりカレッジ本部映像センターが所蔵している映像教材の中から、様々なジャンルの映像を紹介する「カレッジわくわくシアター」をスタートします。皆様のご来場をお待ちしています。上映内容詳細は裏面をご覧ください。

6月3日（日）
13:30～
映画など

- みすゞ
- 映像でつづる思いでの富山
「富山県ニュース」

7月1日（日）
13:30～
ドキュメンタリー・文学

- 詩人 谷川俊太郎
- 名作ってこんなに面白い
「人間失格」「檸檬」「こころ」

8月5日（日）
13:30～
自然

- 日本の森シリーズ
「北の大地に息づく命 亜寒帯・北海道の森」
- 森に生きる 一森の名手・名人一
- 未来に引き継ぐ立山の貴重な自然

9月2日（日）
13:30～
戦国・城

- 戦国英雄伝説
新釈 眞田十勇士 スペシャル「上田城攻防」
- 司馬遼太郎と城を歩く
「上田城『関ヶ原』、洲本城『街道をゆく明石海峡と淡路みち』、高取城『庄兵衛稻荷』『おお、大砲』、丸亀城『竜馬がゆく』」

上映時間 13時30分～（開場：13時）

上映場所 ウイングウイング高岡 7階
県民カレッジ高岡地区センター 学習室

入場無料
事前予約不要

【お問い合わせ】 県民カレッジ高岡地区センター TEL：0766-22-5787

6月～9月上映内容

月	日	上映作品
6	3日 (日)	<p>■みすゞ 監督：五十嵐匠 (105分) 出演：田中美里、中村嘉葎雄、永島暎子、加瀬亮、寺島進、イッセー尾形 ほか 若き詩人中の巨星と西條八十に絶賛を受けながらも26歳で夭折した童謡詩人「金子みすゞ」。没後その作品は散逸し、幻の天才作家として語り継がれていた。優れた作品を残しながらも若くして自ら死を選んだ理由は…温かく優しい詩作の裏に秘められた真実とは…</p>
		<p>■映像でつづる思いでの富山「富山県ニュース」 (78分) 昭和26年から29年に放送された「富山県ニュース」</p>
7	1日 (日)	<p>■詩人 谷川俊太郎 (59分) 60年以上にわたって日本語に向き合い、詩を作り続けてきた80歳の詩人、谷川俊太郎。この人が行くところには、多くの子どもや若者、大人が集まってくる。デビューから60年の創作活動を振り返り、今に生きる「詩人 谷川俊太郎」に密着した作品。</p>
		<p>■名作ってこんなに面白い「人間失格」「檸檬」「こころ」 (53分) 日本の近代文学を映画やアニメでストーリーを紹介、出演者がその作品の背景・作者を分かりやすく解説。 【人間失格（太宰治）】人を信じることを拒否した青年・葉蔵が破滅へと歩んでいく様を自伝的に書いた「人間失格」は、今も若い読者に熱烈に支持されている。葉蔵の心をたどる形でストーリーが展開。 【檸檬（梶井基次）】肺を病み、借金を抱えて町をうろつく主人公にとって、八百屋で手にした檸檬との出会いが最高の喜びだった。生への執着・生命の象徴を檸檬に託して描いた傑作。 【こころ（夏目漱石）】漱石後期三部作の最後に位置する傑作。「私」が先生と呼ぶ人物は、謎めいた影を背負っていた。「人間はいざという間に、誰でも悪人になる」そう言い切った先生は、やがて自らの「我執」から生じたある悲劇を告白する……。</p>
8	5日 (日)	<p>■日本の森シリーズ「北の大地に息づく命 亜寒帯・北海道の森」 (35分) 四季ごとに豊かな素顔を見せる森で、密接に関わり合いながら生きる多様な動植物たちの姿を紹介し、自然の不思議とその魅力に迫る。更に、北海道の森と人々との関わりを見つめ、貴重な森を守っていくための様々な試みを紹介。</p>
		<p>■森に生きる 一森の名手・名人ー (32分) 日本人と森との深い関わりの歴史と、その中で培われてきた独自の林業技術を見つめるとともに、現代にその技術を受け継ぐ、森の名手・名人の姿を通じて日本の木の文化について考える。</p> <p>■未来に引き継ぐ立山の貴重な自然 (16分) 中部山岳国立公園の中に位置する立山には、年間100万人以上の観光客が訪れる。これだけ多くの人が行き交う場所でありながら、立山は貴重な自然環境が守られている地域である、その背景には、地道に自然保護活動を続けてきた人々の努力がある。この作品は、立山の自然環境保全に取り組むナチュラリストの活動や、ライチョウなどの貴重な動植物を保護する取り組みなどを紹介。</p>
9	2日 (日)	<p>■戦国英雄伝説 新釈 真田十勇士スペシャル「上田城攻防」 (57分) 戦国時代の真田家と徳川家の攻防をテーマにした時代劇アニメーション作品。 1600年（慶長5年）の関ヶ原の合戦時、徳川軍の主力である秀忠が率いる軍勢3万8千の兵を、西軍側についた真田昌幸、信繁（幸村）親子が上田城で足止めした史実をもとに物語が展開されていく。</p>
		<p>■司馬遼太郎と城を歩く (60分) 城が好きだった司馬遼太郎の作品には、さまざまな城が登場する。歴史に名を残す、名城の栄華と数奇な運命、そして城主たちの野望と挫折を、司馬作品のエッセンスとともに訪ね歩く。 【上田城（長野）】名将・真田幸村らを輩出した名門真田家氏の拠点上田城は、徳川の軍を2度も撃退した城だ。小説『関ヶ原』の中では、家名を守るため親子・兄弟で東軍・西軍に分かれる決断の場面が描かれている。 【高取城（奈良）】古い歴史を持つ山城・高取城は、豊臣秀吉の弟・秀長の家臣によって生まれ変わった。幕末には尊王攘夷派によって襲われるが、城兵が撃退する様子が小説『庄兵衛稲荷』などに描かれている。 【洲本城（兵庫）】眼下には大阪湾を一望する淡路島の洲本城。江戸時代、一国一城令がありながら、山上の旧城と麓の新城が共存したのは珍しいことと、司馬遼太郎は『街道をゆく』の中で指摘した。 【丸亀城（香川）】金比羅大権現に参拝する人々の船でにぎわった丸亀。坂本竜馬が旅の途中で立ち寄る様子が小説『竜馬がゆく』で描かれている。4段階に積み重ねられた丸亀の石垣は、合計約60メートルと日本一の高さだ。</p>